

部分と全体：歯科心身医学研究への提言

A Part and The Whole ; A Proposal to Psychosomatic Dentistry Research

長嶺 敬彦

新生会 いしい記念病院内科

私どもは、専門性もなく、なおかつ「歯科心身医学」に素人の医師です。しかし歯科心身医学研究にヒントを与えることができればと思い、無知を承知でお話をしてみたいと思います。

タイトルの「部分と全体」というのは、不確定性原理で有名な物理学者ハイゼンベルクの自叙伝のタイトル「Der Teil Und Das Ganze」からとったものです。部分の総和が全体でないことはよくあります。ですから、身体の一部分である歯の治療を完璧に行っても解決できない問題があるのです。そもそも有能な歯科医が歯の治療の枠、すなわち「歯の修理モデル」を超えて、脳機能(mind)に言及したのが本学会ではないかと思えます。

さて、歯科心身医学研究では「ギャップ」が一つのキーワードになると思えます。何と何のギャップかといえば、口腔病変という客観的な部分の病理と患者が感じる主観的な認知のギャップです。知覚を含めた認知機能が、局所である口腔の病態生理と関連しない現象を解明することです。そこで本日は私どもが研究対象にしてきた脳内のドーパミン神経系を中心に、ヒトの認知機能や精神機能についてお話してみたいと思います。ドーパミン神経系の原始的な役割、神経細胞の数と発生、回路の重要性、腸内細菌叢と脳機能、脳の特徴である並列分散処理、モラルの回路、サルルの思いやり、などをお話しいたします。

略 歴

1956年山口県萩市生まれ。1981年自治医科大学卒業。麻酔科医から出発し、へき地医療とプライマリ・ケアの研究に従事したのち、1999年から2012年まで山口市の単科精神科病院に内科医として勤務。その後2013年より、いしい記念病院(山口県岩国市：精神科と内科の複合病院)の内科に所属し、精神疾患患者の身体疾患の治療と研究に従事し、現在に至る。麻酔科標榜医。内科学会認定医。医学博士。

受賞歴

第3回月刊福祉最優秀論文賞「全人的アプローチを基盤にした福祉活動のモデル論とその実践的応用としての4軸アセスメント」、第4回日本プライマリ・ケア学会学術奨励優秀賞「地域医療における解釈モデルの応用に関する研究」、健康と医療を考える論文コンクール最優秀賞「予防と治療を総合化した医療のしくみについて」、公共政策調査会公募論文・優秀賞・読売新聞社賞「声掛けで守る地域社会—地域社会構築での言語の役割を考える—」など。

2015年には「統合失調症と身体的未病」で老人病研究所優秀総説論文賞を受賞。

著 書

- 抗精神病薬の身体副作用がわかる — The Third Disease (医学書院)
- 予測して防ぐ抗精神病薬の「身体副作用」
— Beyond Dopamine Antagonism (医学書院)
- 抗精神病薬をシンプルに使いこなすための EXERCISE (新興医学)
- 合失調症を生きる — 精神薬理学から人間学へ— (新興医学)
- みんなで考える認知症 (中外医学社)
- 命をつなぐドパミンの物語 — 抗精神病薬の薬理から (中外医学社)

ひとこと

医学は発展途上です。科学的な現代医学でさえ、生命現象をすべて解き明かすには今後さらに多くの時間を要するでしょう。臨床はそれを待てません。今が大切です。だから臨床では、科学的な視座と社会文化的な視座を相補的に融合し、その時代における最善の対処方法を考えなければなりません。「科学の知」と「神話の知」の両者をバランスよく用いることで「臨床知」が生まれるのです。生命現象は精神も身体も同じ原則があると推測しています。精神薬理学も物理化学法則に還元できなければ、それは単なる比喩にすぎない可能性があります。

代表論文

Ozasa R, Okada T, Nadanaka S, Nagamine T, Zyryanova A, Harding H, Ron D and Mori K: The Antipsychotic Olanzapine Induces Apoptosis in Insulin-secreting Pancreatic β Cells by Blocking PERK-mediated Translational Attenuation. *Cell Struct. Funct.* 38, 183-195, 2013.

Nagamine T. Atypical Antipsychotics May Have Dopamine Agonistic Activity Because of Their Pharmacophore. *Int Med J.* 2013; 20 (5): 552-554.

Nagamine T, Nakamura M. Antipsychotic-Induced Metabolic Abnormalities May Increase the Risk for Excess Mortality in Psychiatric Patients. *Int Med J.* 2015; 22 (1): 23.